

4-4

おじさんたちも頑張ってるで！

谷平 勉

TANIHIRA Tsutomu

正会員 工博

近畿大学教授 理工学部社会環境工学科

CVV (シビルベテランズ&ボランティアズ)



CVVというのは、FCCを受け継いで高齢化した土木屋の集まりだろうと受け取られているかもしれないが、そうでもない。下部組織でも上部組織でもない。レッキとした独立任意団体である。

しかし、はじめのメンバーの中に FCC の遺伝子を運んできた人が数人いて、「C」の理念は伝わっている。CVVのことを人にはいつもこう説明している。シビルとは狭義では土木のことだが、もう少し広い意味でいうと市民、文明の意味で、人々の生活、文化を支えるための技術を担うことだと考えている。このシビルの精神に共感できれば、技術者でなくても CVV 活動に参加できる。またベテランとはいつでも現役を退いた者だけとは考えていない。退役後のことを考えている若い人も含む。

スタート時、十数人のメンバーが毎月 CVV の進め方について討論した「談論風発」の時代が約 3 年続き、ほぼ今のシステムの骨組みができあがった。4 年前最初の総会開催に際し広く公募した結果、約 100 人の参加を得、このメンバーが CVV の母体となり、多少の出入りがあるが、現在は 50

名ほどのメンバーが活動している。

CVV のおもしろさの一つに、予算もなく会費もない、すべて手弁当で、お金からの自由が挙げられる。これは自由であると同時に不自由の素でもある。しかしわれわれは不自由の中にこそ自由があると密かに自負している。こういう組織性の薄い団体だが、インターネットの活用が CVV を支えている。まず、メーリングリスト。連絡、資料の交換などすべてメールで行う。記録資料はウェブで閲覧できるようにサーバに蓄積していく。ウェブ機能を利用することによって、事務的処理の分散化を図れるので事務所が不要となる。このことは、CVV は組織で動くというより、メンバー個人に依存する部分が多く、個人行動の集合であるということを示している。こういった IT 環境を利用したホロニックなシステムが特徴である。

具体的な活動を紹介します。

まちづくりグループ：まちづくりについて高所からもの申したいという願望からグループ研究をスタートさせた。まずは、まち探検から始め、栗東駅周辺新都市拠点ゾーン計画事業化コンペに参加、ホロニックゾーン構想を立案し応募した。大阪駅北ヤードの設計理念コンペにも参加し、大阪城と同じ高度の建物に「知の天守閣」を、という構想で応募した。現在は御堂筋が近畿文化圏の中心になるという構想を練っている。成果はシンポジウムで世に問う予定である。

アドバイスグループ：一般市民からの土木に関するよろず相談を受け付けている。専門分野のメンバーが懇切丁寧にアドバイスをを行っている。そして出前講座。これは海外土木事業を経験した人たちが立案し、大学生向けに海外事業の現状を講義している。今までに近畿圏のほとんどの大学に出張した実績を持っている。また「どぼくってかっこいい」という



図-1 CVV活動の柱

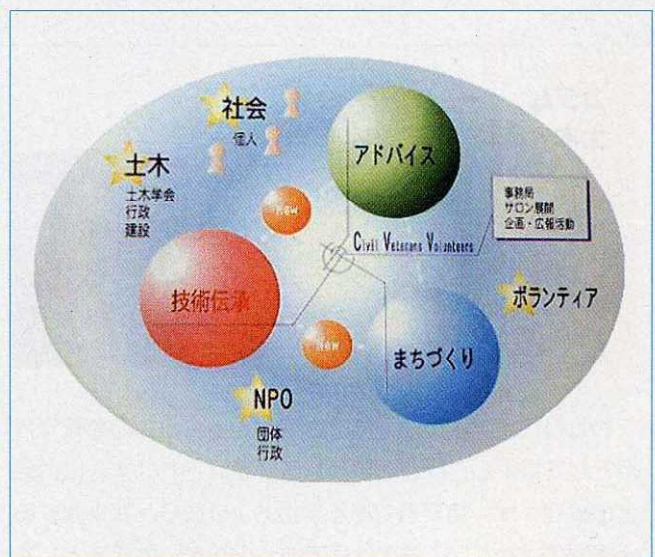


図-2 CVVの活動